

ウルリム
響

響

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第59号

2014年7月25日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: nskikuno@gmail.com

聖公会生野センター 検索

「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言ひ表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言ひ表す。」(マタイによる福音書 10章 32節)

「新共同訳」が「わたしの仲間であると言ひ表す者」とした部分、原文には「私のことを告白する者」と書いてある。しかし何を告白するのか、その内容が書かれていない。だからここは意識して意味を通すしか無いのだろうが、われわれは何を告白するのか、そこが問題だ。

この前後でイエスは仲間たちに迫害と死を覚悟せよと迫っている。あいつらには君たちの身体は殺せても命は殺せないのだ、だから安心して殉教せよ！と過激に煽動する。ところで、そこまでの覚悟が必要な告白とは何だったのだろう。「新共同訳」が考えたように、わたしはイエスの仲間だ、ということだったかもしれない。権力者から嫌悪され政治犯として処刑されたイエス、一時は大衆の支持を得たとはいえ最後は側近たちにも見捨てられた哀れな「偽メシア」イエス。誰もそんな人物の仲間だとはいいたくない。共犯として処刑されるか、迫害されるか、生き延びたとしても待っているのはマイノリティーとしての暮らしだ。

今の時代、自分はクリスチャンだと告白すれば多少の不利益はあることだろう。けれどもこの告白は殉教を覚悟するようなものではなくなってしまった。イエスの記憶がいかに過激で危険なものであり、権力者を脅かすものであることを知る人は多くない。クリスチャン自身も「十字架に従う」人性について幾重にも解釈を重ねて飲み込みやすくしているのではないか。いや、過激に生きればいいのではない。今の時代、む

しろ地道に、誠実に、いかなる力にも動ずることの無いぶれない軸を持って生きることこそが困難なのだ。そのように生き抜いた人間を人は恐れ、憧れ、心に刻むものなのだ。

辞書によれば、「告白」とは秘めていたことがらを公にすることだ。そして「カミングアウト」とは自分が少数者であることを公表することだ。そのことをなぜ秘めていなければならなかったのかが問題だ。自分は少数者だと公表するのになぜ勇気がいるのかが問題だ。予想される差別、偏見、攻撃のゆえに、人はそれを告白できないでいる。少数者がこうむる様々な不利益を知るだけに、公表するのがためられる。人間の残酷さ、世の中の冷淡さが真実の告白とカミングアウトを困難にしているのだ。

差別や攻撃の対象となっている人々の側に立ち連帯することは、その人々が受けているのと同じ差別と攻撃を引き受ける覚悟を要求する。「日本聖公会第61総会」は、民族差別やヘイトスピーチの根絶を誓い、多民族・多文化共生社会の創造を求めて歩むことを表明した。これが現代の告白でなくて何であろう。実はこれまでも日本聖公会は「戦争責任」を告白し被差別少数者との連帯を表明してきた。これらはすべて、残酷で冷淡な社会にあって自分たちが引き受けることになるものを知ってのカミングアウトであり、世界中の仲間たちとの熱き連帯を信じての信仰告白でもあったはずだ。

|| 時のしるし ||
告白する教会

香山洋人

(かやま ひろと

司祭 東京教区千住基督教会牧師)

管区総会・ヘイトスピーチ決議文

5月27日から29日に開かれた日本聖公会第61総会で以下の決議案が満場一致で採択されました。右傾化の進む中で「草の根」のファシズムに対する教会の立場表明です。

「ヘイトクライム（人種・民族憎悪犯罪）、ヘイトスピーチ（人種差別・排外表現）の根絶と真の多民族・多文化共生社会の創造を求める日本聖公会の立場」を採択する件

提出者

大阪教区

主教議員 主教 大西 修(人権問題担当主教)
 聖職代議員 司祭 岩城 聡

京都教区

主教議員 主教 高地 敬
 聖職代議員 司祭 黒田 裕
 聖職代議員 司祭 井田 泉

東京教区

主教議員 主教 大畑喜道
 聖職代議員 司祭 笹森田鶴
 信徒代議員 黒澤圭子

正義と平和委員会 主教 渋澤一郎

青年委員会 司祭 小林 聡

2000年代後半に入り「行動する保守」をスローガンに「在日特権を許さない市民の会」(略称：在特会。2007年結成)をはじめとする民族排外主義団体は、街頭に出て聞くにも堪えない民族排外表現を内容とする示威運動を続けています。2009年12月には授業中の京都朝鮮初級学校を襲撃し、これから育っていく子どもたちだけでなく学校関係者、地域社会に大きな傷を与えました。この事件を契機に日本社会でもヘイトスピーチという言葉が認知されてきて

います。

明治以降の植民地主義・軍国主義による日本のアジア侵略と植民地支配はその反省が不十分であり、かつ旧植民地出身者、とりわけ朝鮮半島出身者とその子孫には同化と排外政策でもって権利が侵害されてきた状況があります。そのことは現在の在日韓国朝鮮人問題の起源と言っても過言ではありません。

日本聖公会では、大阪教区の聖ガブリエル教会の復興と聖公会生野センターの活動への協力、また日韓聖公会の交流・協働関係を通して、共生社会を求めてまいりました。しかし21世紀に入り日本の右傾化に伴いネット空間を中心に「嫌韓」のムードが一部社会に広がってきました。これは前述した植民地支配の反省がなされていないことに起因するものであります。

このヘイトスピーチは現在も毎週日本の各地で行われており、攻撃対象も在日韓国朝鮮人だけでなく在日アジア人、被差別部落の人々、沖縄の人々、広島・長崎の被爆者、アイヌ民族、性的少数者と広く社会で弱い立場にあるマイノリティーに広がっています。ヘイトスピーチは、対象とされる人々の存在そのものを脅かし、否定・抹殺しようとするものであり、心身を深く傷つける犯罪です。

京都朝鮮学校襲撃事件は2013年10月に京都地方裁判所において人種差別であるとした日本では画期的な判決が下されるに至りました。このヘイトスピーチの動きに対して国連の人権報告(2014年2月)も、日本政府には是正対応を正式に勧告しています。日本は人種差別撤廃条約を批准していますが、ヘイトクライムやヘイトスピーチを規制する条項(注※第4条のa、b)は留保したままです。170か国を超える批准国でこの条項を留保しているのは5か国にすぎません。国連からも早急に全面批准を求められています。欧米諸国ではホロコース

●注※(第4条のa、b)●

- (a) 人種的優越又は憎悪に基づく思想のあらゆる流布、人種差別の扇動、いかなる人種若しくは皮膚の色若しくは種族的出身を異にする人の集団に対するものであるかを問わずすべての暴力行為又はその行為の扇動及び人種主義に基づく活動に対する資金援助を含むいかなる援助の提供も、法律で処罰すべき犯罪であることを宣言すること。
- (b) 人種差別を助長し及び扇動する団体及び組織的宣伝活動その他のすべての宣伝活動を違法であるとして禁止するものとし、このような団体又は活動への参加が法律で処罰すべき犯罪であることを認めること。

<提案理由>

日本聖公会は、全教区・教会で1992年に開設した聖公会生野センターの働きを覚えて祈り支えている。その活動の趣旨は在日韓国朝鮮人その他の外国人住民と日本人とが共に生きることのできる地域社会の実現のためである。2012年の日本聖公会宣教協議会<宣教・牧会の十年>提言では、【「高齢者」「青年」「女性」「男性」「子ども」「障がい者」「外国人」などとひとくくりせず、一人ひとりの生きている重みを尊重し、積極的な出会いの中から、いっしょに歩く交わりを形成していきます】と宣言しています。ここ数年の在特会などの動きは、日本聖公会の宣教の方向性に逆行するものであり、明らかに人権侵害であるため、本決議をもって日本聖公会の立場を表明するものである。

トに代表される民族排外・絶滅主義の反省に立ち、その社会で人種・民族・文化・宗教的少数者の保護のために様々なヘイトクライム、ヘイトスピーチの規制を行っています。しかしこの日本では全くと言ってよいほどそのための法整備はなされていません。

聖書の中には非難と憎悪の声に脅かされた人々の叫びがあります。

「わたしを踏みにじる者の嘲りから、わたしを救ってください。わたしの魂は獅子の中に、火を吐く人の子らの中に伏しています。彼らの歯は槍のように、矢のように、舌は剣のように、鋭いのです。」(詩編57:4～5)

「御覧ください、彼らの口は剣を吐きます。その唇の言葉を誰が聞くに堪えるでしょう。」(詩編59:8)

ここで神は脅かされた者に対して「慈しみ深く、先立って進まれる」(詩編59:11)神であると歌われています。神はかつてイスラエルの民に寄留者を虐げることがを禁じ(申命記24:17)、その生活と権利を守ることを命じられました(レビ記19:10、申命記10:18)。また神は「人はそれぞれぶどうの木の下、いちじくの下に座り、脅かすものは何もない」(ミカ書4:4)という日の到来を約束し、わたしたちがそれに向かって生きることを求めておられます。

グローバル化が進む現代社会にあって多民族・多文化社会は避けられないものであるという以上に積極的に創造されるべき姿であります。しかしこの民族排外主義の動きはそれに真っ向から敵対するものであり決して「表現の自由」という言葉で守られるべきものではありません。わたしたちは「慈しみ深く、先立って進まれる」方に従い、ヘイトクライム・ヘイトスピーチの根絶を誓うとともに、真の多民族・多文化共生社会の創造を求めて歩むことを表明します。

聖公会生野センター会員総会開催

=今年末まで新拠点募金継続決定=

NPO法人は年に一度の会員総会の開催が法律で義務付けられています。それに従い特定非営利活動法人聖公会生野センターは毎年6月中に会員総会を行っています。

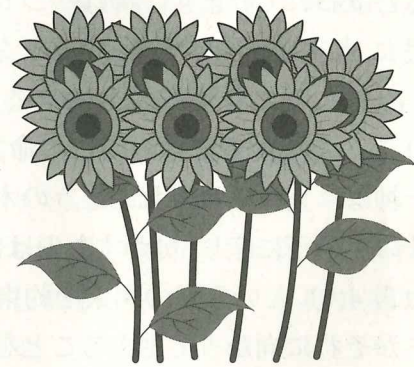
今年は2014年6月29日(日)午後3時～4時20分まで行われました。会場は大阪城南キリスト教会でした。会員68名中委任を含めて40人が出席し、議長に理事長の大西修主教を選出したのち議案の審議に入りました。議案は以下のとおりです。

- 第1号議案 議事録署名人選出の件
- 第2号議案 2013年度事業報告承認の件
- 第4号議案 役員選出の件
- 第5号議案 2014年度事業方針案承認の件
- 第6号議案 2014年度予算案承認の件

これらの議案は修正されたものを含めてすべて承認されました。少し中身を報告しますと、長年監事・理事、そしてウルリムの編集長として奉仕してください

た大橋襄さんが退任され、新しく加納佳世子さん(大阪聖アンデレ教会)が新たに理事として選任されました。

又、管区総会の決議による聖公会生野センターの新拠点確保のための募金活動は昨年6月末で5年間の期間を終えましたが、独自に今年12月末まで継続することが決議されました。当初の目標の5000万円の募金は達成されていませんが、安定した事業の経営のためにあとしばらく募金活動を行いますのでご協力ください。



2008年7月から2013年6月までの献げられた新拠点確保のための募金額は以下のとおりです。

収 入		支 出	
管区信施金	10,000,000	借入金返済	16,000,000
募金	9,282,399	諸経費	160,120
雑収入	2,157	残高	3,124,436
合計	19,284,556	合計	19,284,556

◎2008年に京都・大阪教区から10,000,000円ずつ借入

◎現在借入残高4,000,000円(京都教区2,000,000円、大阪教区2,000,000円)

異文化・共生の街から

辻野 隆雄



京都教区宣教局社会部ではほぼ毎年、聖ガブリエル教会や聖公会生野センター周辺の街を歩き、地域の人々の話を聞き、施設を訪問見学する「体験学習会」を開催している。

5月21日(水)に行われた今回は、東大阪朝鮮第4初級学校の訪問が実現した。ご尽力いただいた長崎由美子さん(日本基督教団信徒)に感謝したい。

訪れた我々一行に対し、顔を合わせた生徒たちはほぼ例外なく「アンニョンハセヨ」と声をかけてくる。それ以外は公立小学生と変わらない。教室も、校庭の雰囲気も、拍子抜けするほど違いは少ない。次に校長先生から学校を巡る状況について伺った。ここで学ぶ園児・小学生は計114名。朝鮮半島にルーツを持っていることが入学資格だが、その多くは日本語で日常生活を送っている。カリキュラムも公立小学校とほぼ同じだが、法的には「各種学校」であり、タカ派首長の政策により、府と市は助成金を打ち切った。「その不足を補うために、やれることはすべてやっている」とのこと。それでも学校は地域のコミュニティと共存し、近くの大阪市立御幸森小学校とは友好的な交流が続けられていることを特に記しておきたい。

一同はコリアンタウン商店街を経て聖公会生野センターへ移り、呉光現総主事の解説で「ヘイトスピーチ」の記録映像を視聴した。数年後にオリンピックが開催される東京で、白昼堂々と在日韓国朝鮮人への人種憎悪をアピールする姿が映し出される。いや、大阪でも、親しみと楽しさ漂うこの商店街の近くにも彼ら一団が現れるようになったという。不謹慎だが、低次元のボキャブラリーを駆使し、憎悪むき出しに絶

叫ぶ彼らの姿には思わず笑ってしまった。というか、不愉快の度が過ぎ「もう笑うしかない」気分というべきか。呉総主事は、彼らの素性・思想・生活環境は多様で、一つの共通項には括れない、と説明する。社会の閉塞感ゆえ異質な人々を仮想的な敵に見立てているだけでは、と思いついていたのだが、そう単純には決めつけられないようだ。

以上の二つに共通して感じるのは、大都市の一面に、異なる文化コミュニティの居場所に非寛容な目を向けるフトコロの狭さだ。21世紀の大都市なら、世界の多くの都市がそうであるように、多様な文化との共存を最も大事な価値として認めなければならないはずにもかかわらず、その価値を理解しかねる人たちが、異文化コミュニティへの暴力に罪悪感を感じない人たちが現実に存在する。一方、大衆向けマスコミは刺激的な報道を目指し、社会正義よりむしろ憎悪を面白おかしく煽る。ゆくゆくは生活保護受給者や身体障害者なども攻撃の対象にされかねない、と心配の声が上がるのも当然だろう。日本と日本人の品格、何より日本の民主主義が問われているという危惧が現実になっているのだ。

参加者一同で意見交換するうちに「いずれクリスチャンも攻撃の対象になるのでは」と心配する声も出たが、正直ちょっと違和感。なぜならば、われわれは本当に自分たちクリスチャンが日本のマイノリティだと自覚していますか？

教会の礼拝にこれらの人たちが出席していますか？

(つじの たかお 京都教区宣教局社会部 聖アグネス教会 信徒)

写真でみるセンターの活動

のいばんのハルモニと地域の小学生の交流



チジミとクレープを作って食べました

クリン モダン 美術展



日韓障がい者美術展を開催しました
大阪韓国文化院にて

地域交流 サービスのバンドが出演



済州4.3事件66周年を迎えて



4月3日の済州島と4月21日の大阪での慰霊祭

国際交流

NPO法人
聖公会生野センタ



韓国の福祉専門のナザレ大学の教授、学生がセンター訪問

パール学院高校生ボランティア体験



毎年卒業を控えた3年生がのりばんでボランティア体験しています

帰国して再認識したこと

松山 健作

3月に留学先のソウルから故郷の大阪に帰国し、韓国生活への名残惜しさを残しつつも、私はそれに終止符を打った。留学生活は通算で4年。振り返ってみれば、非常に短く感じられる。しかし、実際は苦しく辛い時もあり、また楽しく幸せな時もあった。特に帰国前の1年半は新しい生命が与えられ、ソウルでの出産・子育てを経験した。この1年半は、私にとって濃密なものとなり、また様々なことを考えるきっかけを与えてくれた。その中のひとつに娘の「言語」取得が挙げられる。

娘はソウルで生まれてから1年半をそこで過ごした。たった1年半というわずかな時間だが、娘は家では日本語、玄関から一步出ると韓国語が飛び交う日常で過ごしていた。私が大阪で生まれ育ったことに比べれば、異なる状況が彼女の目の前に広がっていたはずである。さらに両親も外に出れば韓国語を話すという状況は、彼女の目にどのように映っていたのだろうか？いや、むしろ彼女にとっては、それこそが日常であったとも言える。

娘は、生まれて1年前後から言葉にならない言葉を発するようになった。しかし、それが何語なのかは、聞き取れない。いわゆる赤ちゃん語だ。もちろん、両親の母語が日本語であるために普段は日本語で受け答えをするのだが、玄関から一步出れば韓国語にスイッチが切り替わる。今から考えると私自身、韓国語で娘に話しかける機会が多かった。そのような日常の中で彼女が一番韓国語を耳にする空間は「教会」であっただろう。また儀式的な要素を重視する大韓聖公会の伝統は、彼女の五感に大きな影響を与えたようだ。香を焚き、リズムに合わせて式文を唱え、教役者・聖歌隊のカラフルな服装、大きなパイプオルガンの音色などなどは幼い子どもにとって非常に刺激的な空間であっただろ

う。

ある時、娘は司式者が「기도합시다(祈りましょう)」と言うと手を合わせ、「アーメン」と会衆が唱えると「アーメン」を共に唱えるようになっていた。このとき私は、^{キドハプシダ}기도합시다と^{アメン}手を合わせる娘ではなく、韓国語によって「아멘」と唱えていることに気づいたのである。むしろ、韓国の教会という空間において、日本語の「アーメン」は存在しようがなかった。1年半という短い時間ではあるが、娘は韓国語と日本語によって育まれ、それが彼女の在韓日本人というアイデンティティになったのだ。日本で過ごし、大きくなるにつれ、彼女は韓国語を忘れるかもしれないが、彼女自身の人生において韓国で過ごしたという経験を大切に保って欲しいと思っている。

かつて、日本は朝鮮半島の人々から「言語」を収奪し、日本語を強制し、母国語を奪い、搾取を繰り返した。つまり「祈り」は日本語に強制され「アーメン」は日本語で唱えさせられたのである。しかし、朝鮮半島が解放を迎え、いく分か時間が経過した今日、両国の関係は変化を遂げ、懺悔と悔い改めを行うことによって和解が成立する関係にならなければならない。しかし、日本に帰国してみるとヘイトスピーチ・ヘイトクライムによって外国人に対する差別が公然と行われる日常を目の当たりにしている。一方で帰国した後も娘は「アンニョン(こんにちは)」「コマウォ(ありがとう)」という新しい言葉を覚えた。両国が互いに理解を深め対話し、心から互いに協力できる関係を築くために、私は尽力したい。

(まつやま けんさく 京都教区)



기도합시다
手を合わせる娘

山本 友美 著 『また「サランへ」を歌おうね』

(合同会社花乱社)

磯貝 治良



1995年以来、日本籍を取得する在日コリアンが毎年、1万人前後に達している。85年の日本国籍法改正によって、朝鮮半島をルーツとする新世代の日本籍あるいは二重籍者の存在もめずらしくない。5世代が登場する現在、日本社会への同質化もすすんで在日社会の様相も変容している。

しかし、1970年代はどうだったか。日本人／朝鮮人を問わず、親世代の意識は頑迷固陋だった。現在の見方からナショナル・エゴイズムを安直に批判することは控えねばならないが、「国際結婚」には当人の人生を左右しかねないハードルがあった。そのハードルはどのようにして越えられるのか。

ノンフィクション小説のスタイルをとった記録『また「サランへ」を歌おうね』は、その難問に立ち向かって結び合い、家族を完成させつつある日本人女性と在日二世男性の物語。ひとまずそう言える。しかし、「家族の物語」に回収して済ませられない、日本、朝鮮半島、在日が連鎖する現代史の物語でもあるようだ。

作品では、70年代～80年代の連鎖する三つの状況が困難の背景に語られるわけではない。一見、主人公たちの恬淡たるキャラクターが難関を見事にしのぎきったようにもみえる。しかし、彼女／彼らが背負ったのは、家族の作り方にとどまらなかった。

おおげさに言えば、国家が仕掛ける不条理と否応なく対面せざるを得なかった。この作品が伝えるもっとも切実な場面——夫の帰化の問題。帰化をめぐる名前変更の強要。日本社会の偏見。

評者(磯貝)の兄弟8人には「国際結婚」した者はいない。兄の息子と連れ合いの従妹の息子が在日女性と結婚。韓国から取り寄せた戸籍謄本の翻訳、仲人役などで帰化申請に関わった程度であるが、そのわずらわしさは知人たちの話から一知半解には知っていた。先例の場合は、在日の側が女性、三世世代のこともあってか、作中のような親／親族との悶着は避けられたが、ダブルの子を妊娠した彼女が一時、精神不安定に陥った。

本の紹介なのに私的な話になってしまった。『また「サランへ」を歌おうね』は、帰化する者の逡巡、納得のいかなさ、心の屈託を臨場的に伝えている。簡明でべたつかない文体が、かえって読者の思考を促す。作者が自己愛に陥りがちなこの種の作品だが、朝鮮人の血が混じることを「恥」とする父(社会通念?)に直截に反撃できない弱さ、もふくめて自分を見つめる感性によって、それをまぬがれている。

本の紹介なのに、内容説明がおろそかになってしまった。

巻末に「特別収録」として、文芸評論家松原新一の「「国家百年の暗がり」の前で」という解説が載っている。第36回部落解放文学賞(記録部門)を受賞した「父のなまえ」にふれたものだが、ナショナリズムの在りようをキーワードに、日本人と朝鮮人の心性を批判的に読み解く重厚な一文になっている。

最後に、言わずもがなかも知れないが一つだけ指摘を。キリスト者である作者が作中の年号すべて元号を使用しているのが気にかかった(ちなみに評者は、天皇家のプライバシーである元号は願い下げにしている)。

(いそがい じろう 在日朝鮮人作家を読む会代表)

感謝です ご支援下さった皆様

(2013年度：2013年4月1日～2014年3月31日 敬称略 順不同)

いつも聖公会生野センターの活動をお祈りくださりお支え下さりありがとうございます。本来でしたらご支援くださったすべての方のお名前を記し感謝申し上げるべきところですが教会、諸団体、グループ等でご支援いただき、お名前がわからない方もいらっしゃいます。あわせて感謝申し上げます。これからも、お祈りご支援よろしくお願い致します。(複数回ご献金下さった方も多くいらっしゃいますが、掲載はお一人1回とさせていただきます。)

大西修 / 矢萩新一 / 奥晋一郎 / 嵯峨崎順子 / 伊藤美佐子 / 石脇慶總 / 三浦恒久 / 冷麵館代表春山宗治 / 九州教区 / 武藤謙一 / 兒玉宣昭 / 尾崎茂雄 / 黒田裕 / 城下彰 / 松蔭女子学院 / 井田泉 / 小山俊雄 / 出口弘 / 金秀男 / 中村豊 / 中島省三 / 大阪教区婦人会 / 前田良彦・恂子 / 張聖子 / 松原恵美子 / 須佐美浩一 / 呉光現 / 岩城聰 / 林芳子 / 岡田まり子 / 木村多恵子 / 小川昌之 / 寺本眞名 / 小室一 / 中てる子 / 吉岡容子 / 香山まり子 / 石田浩子 / 神谷尚孝 / 大久保忠昭 / 古谷美子 / 越山健蔵 / 高地敬 / 井口諭 / 棚原恵正 / 榎本房代 / 畑野栄一 / 横内洋子 / 保坂久代 / 松居勲 / 関正勝 / 中野三枝子 / 小山紀巳子 / 中村道子・光・香・真理・由香里・延商準 / 関ノリ子 / 聖ニコラス保育園 / 目崎宗世 / 佐藤千鶴子 / 後藤聡 / 宮橋コウ / 塩田純子 / 辻本秀子 / 三宅亨子 / 平野聡 / 山田拓路 / 松本一 / 近澤淑子 / 橋本克也 / 大塚勝 / 小林幸子 / 関澄子 / 松本正俊 / 高見久江 / 池本則子 / 山根博子 / 舟茂恵子 / 藤永壯 / 岡野利治 / 植松誠 / 松本潤子 / 田辺聖公会愛の園シオン会 / 中原恵 / 中山一郎 / アジア国際夏期学校 / 安井クリニック趙秀一 / 宮脇一郎 / 浮田真理 / 姜聖律 / 兒玉勢津子 / 武藤六治 / 辻彩乃 / 大西

憲子 / 香山洋人 / 宮嶋眞 / 林香代子 / 石橋市子 / 大洲幼稚園 / 聖マルコ幼稚園 / 名古屋聖マタイ教会 / 榎本房江 / 愛光幼稚園 / 一宮聖光教会 / 井出吉志子 / 豊田幼稚園 / 草香江幼稚園園児一同 / 市川聖マリヤ幼稚園 / 叶信治 / 室蘭聖マタイ教会 / 浅草聖ヨハネ教会 / 西大和聖ペテロ教会 / 愛隣館研修センター / 岩田幼稚園 / 申英子 / 川越基督教会 / 千葉復活教会 / 桃山キリスト教会 / シオン幼稚園 / 百井幸子 / 芦屋聖マルコ教会 / 松浦順子 / 三条聖母マリヤ教会 / 松山聖ルカ幼稚園 / 名古屋聖ステパノ教会 / 聖パウロ教会 / 京都復活教会 / 米子聖ニコラス教会 / 松戸聖パウロ教会 / 聖十字幼稚園 / 銚子諸聖徒教会 / 関西韓国 YMCA / ウィリアムス神学館学生会 / 関東3教区生野委員会 / 石橋聖トマス教会 / ウィリアムス神学館 / 聖公会社会福祉連盟 / 南大阪3教会信施金 / 福田順子 / 大垣市内信徒会 / 大谷タカコ / 藤井千代子 / 塚本美津子 / 東京教区 / 金耕成 / 豊田商店 / 東京聖テモテ教会奉仕会 / 池星熙 / 大阪教区連合男子会 / 大田美智子 / 奥田哲夫 / 博愛社こひつじ乳児保育園 / 鈴木憲二 / 春名英夫 / 齋藤壹 / 磯晴久 / 堀江裕一 / 小出裕司 / 中島千恵子 / 後藤由江 / 中芝永次 / 金光秀晃 / 高田日

出男 / 辻潤 / 竹林敏子 / 奥村貴充 / 猿橋靖 / 猿橋正子 / プール学院 / 石井英隆 / 内田照子 / 中和子 / 泉迪子 / 李美好 / 畑野めぐみ / 森中央 / 桜井揚子 / 橋本祥子 / 平田強治 / 速水健二 / 齋藤祥子 / 藤田法子 / 川村輝夫 / 佐野信三 / 当舎あずさ / 三宅亨子 / 福永芽久美 / 浅野忠章 / 服部喜代司 / 服部慶子 / 東敏勝 / 真鍋倫子 / 竹林經一 / 高槻聖マリヤ教会 / 清水涼房 / 植松喜久江 / 鈴木靖夫 / 岡本勝 / 川口基督教会 / 吉田常夫 / 花垣正 / 大黒敏子 / 佐伯利恵 / 富谷晋 / 三宅亮子 / 吉田哲子 / 佐治孝典 / 桜井陽子 / 山根貞夫 / 齋藤修 / 中芝正美 / 高田須磨雄 / 山本眞 / 大久保優子 / 愛の園 / 大阪聖アンデレ教会婦人会 / 八尾恵三 / 堺聖テモテ教会 20名 / 俣野恵子 / 内宮隆夫 / 瀬山義美 / 若村正博 / 島田由紀子 / 大野吾子 / 国津進・恵美子 / 田中廉 / 今西正弘・時子 / 長野加代子 / 坪田敬子 / 早川文子 / 井脇

宏行 / 村上君子 / 松田祥吾 / 樋口敏雄 / 福崎精造 / 三村タミエ / 佐谷和子 / 相楽弘子 / 小堀孝子 / 古莊和子 / 堀武 / 堀貴美子 / 本多修 / 前原潔 / 服部喜代司 / 今村祥子 / 杉本美津子 / 林眞澄 / 森中みよ子 / 佐藤耕一・正子 / 尼崎聖ステパノ教会婦人会 / 大阪聖アンデレ教会 / 村井幸子 / 堺聖テモテ教会 / 辻節子 / 川村昌子 / 尼崎聖ステパノ教会 / 林寛子 / 恵我之荘聖マタイ教会 / 西宮聖ペテロ教会 / 大阪聖愛教会 / 聖ルカ教会 / 守口復活教会 / 井上浩行 / 小野田芳大 / 田中久子 / 洲上千鶴 / 青柳美智子 / 佐野登代子 / 野上千春 / 農大輔 / 多方清子 / 佐藤悦子 / 江野隆夫 / 藤木典子 / 菅寛量 / 長野泰信 / 岩村正博 / 宇野徹 / 早川俊 / 大阪聖パウロ教会 / 久下克己 / 三光事業団 / 東峰多寿 / 坂東長輝 / 辻彩乃 / 黒田益弘 / 木村幸夫 / 内藤昇 / 岡本愛子 / 古澤秀利 / 古澤恵依子 / 大阪聖パウロ教会婦人会 /

〈2013年度会計報告〉

収入の部		支出の部	
受託事業	11,980,260	事業費	5,522,451
利用者負担金	4,907,995	事務費	4,360,937
会費・寄付	6,756,867	人件費	10,017,785
助成金	320,000	積立金	180,000
雑収入	388,659	次年度繰越金	304,392
合計	24,353,781	合計	24,353,781

コラム・一粒の麦

セシリア大岡 左代子

昨夏、ウィリアムス神学館の夏期実習で本当に久しぶりに生野センターを訪れる機会が与えられた。のりばんで聞いたハルモニたちの日本での厳しい生活の歴史に心が痛かった。戦時中に焼け野原で一人残されたあるハルモニの話は壮絶だった。もし、私が彼女であったなら生きていくことができたのだろうか、と思わずにはいられなかった。

一方、久しぶりに本屋へ足を運ぶと気分が悪くなるくらい「嫌韓」「反韓」の本が並んでいる。それもまったく遠慮なしに大きな顔をして座っているように見える。いつの間にこんなことになったのか？心が痛い。私が毎週楽しみにしていた某局の韓国ドラマ放映が英国ドラマに変わったのは偶然だろうかと思われたい。

出会うこと

実習中「日本人が嫌いですか？」との質問に「日本人とか在日とか韓国人とかの括りではなく、その人の問題だ」と呉さんは答えられた。それは人と人との出会いが大切だということではなかったか。

私たちは往々にして自分が出会いもせずに思い込みや偏見で人を判断し、無自覚な差別を生み出してしまふ。多くの人は噂話が好きだ。でもそれらは大概「噂」にしか過ぎず、事実ではない。私自身さまざまな場での出会いによって知らなかったことを知るという経験をしてきた。ハルモニたちとの出会いもそうであった。

これからもいろいろな出会いを通して本当のこと、大切なことが見分けられるようにと思う。そこには必ず神様が共にいてくださることを信じて。

(おおおか さよこ)

聖職候補生 平安女学院大学チャプレン)

余韻

■大切な友人が天に召された。5月末のことである。前夜式、告別式のメッセージで語られた「彼は決してぶれなかった」という言葉を噛みしめている。僕たちが生きていく中で「筋を曲げる」ことが多々あるが、彼の生き方を忘れずにいきたい。今回の香山洋人さんの「時のしるし」も彼のことを思って書いたと原稿の添え書きにあった。多くの人に生き方を示した彼は今「地の塩」となって私たちの中に生きていく。■「剣に頼る者は剣で滅ぶ」という言葉がある。7月1日の集団的自衛権の解釈改憲の閣議決定は多くの批判と反対がある。私は安倍総理の記者会見を見ていて彼がしきりに「日本」「日本国」「日本人」「国民」と語っていた姿に強烈に違和感を持った。彼の中には日本に200万人を超える外国人が居住しているという意識はなのだろうか？「敵国人」「敵性人」という言葉がまたまた生まれるのだろうか？心配だ。(ピクワンチャ)

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

- ◇正会費 年額 1口 10,000円
- ◇後援会費 年額 1口 3,000円から
 - ・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
- ◇自由献金・クリスマス献金
 - ・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
 - ・銀行振込 三菱東京UFJ銀行 東大阪支店
普通預金 4654965「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL06-6754-4356/FAX06-6224-7869

E-mail: nskkikuno@gmail.com

http://www.nskk.org/province/ikuno

発行人：大西 修

ウルリムは再生紙を使用しています。